



(156)

小学校4～6年生向け

年組

(2023年4月2日付・下野新聞23面)

絵本作家 ヨシタケさん10周年

人生の出来事は良くも悪くも考え方次第で全て楽しめる。子どもから大人まで幅広い世代の人氣を集めるヨシタケシンスケさんが、4月で絵本作家デビュー10周年を迎える。これまで絵本を通じて「困った問題に遭遇しても、別の見方もあるよ」と提案してきた。

3月発売の絵本「ぼくはいいこととおもう」は、どこにいても「ぼくはいいこととおもう」は、地図がテーマ。新刊では、自分自身を俯瞰して見ることの面白さや大切さを描いた。考えることを楽しむ「発想えほん」シリーズの5作目で、1作目の「りんごかもしれない」がデビュー作だった。新刊絵本の主人公の

良くも悪くも考え方次第



新刊について「地図を作るような感じで、好みや考えていることを図にできないだろうかと考えた」と話すヨシタケシンスケさん

「ぼく」は、お母さんの描いた地図を頼りにおつかいに出かけ、地図は自分が今いる場所を把握できたり、目的地までの道順を示してくれたりする物だと気付く。ページが進むにつれて、「きもちのちず」や「じかんのちず」と、道や場所を示す

本来の地図とは異なる、さまざまな概念の地図が登場する。それらの地図の中で、ヨシタケさんの思い入れがあるのは「ぼくのちず」と、道や場所を示す

テーマの新刊発売



「ぼくはいいこととおもう」

「ぼくはいいこととおもう」

ヨシタケさんは「良いこと悪いこともあるけど、苦しさはずっと続かない。自分を盛り上げる方法、自分で開発することができると話す。イラストレーターとして活動し

ていくんだとおもう」

最近「気持ちや好みを作品に反映できるように」話すヒントメーカーは、今後の自分について表情を変えずにこう語った。「これから、自分や人にとって切実な問題をテーマにしていきたい」

新刊「ぼくは」は、ブロンズ新社刊、1540円。

【言葉の意味】

- 俯瞰…高いところから見下ろし眺めること。広い視野で物事を見たり考えたりすること。〈類義語〉大局、客観。〈対義語〉近視眼的、偏狭
- 把握…しっかりとつかむこと。しっかりと理解すること。〈類義語〉納得、得心。〈対義語〉漫然、漠然
- 概念…大まかな意味内容
- 切実…心に強く感じるさま。身近に深くかかわっているさま

設問

【1】見出しの□に入る言葉を本文からさがして書きましょう。

【2】ヨシタケさんの新刊に出てくる本来の地図とは異なる、さまざまな概念の地図を三つさがして書きましょう。

()
()
()

【3】次の文を読んで、正しい文には○、まちがっている文には×を()に書きましょう。

①ヨシタケさんのデビュー作の題名は「みかんかもしれない」である。()

②ヨシタケさんの新刊の題名は「ぼくはいいこととおもう」である。()

③ヨシタケさんはこれまで絵本を通じて「困った問題に遭遇しても、別の見方もあるよ」と提案してきた。()

④ヨシタケさんは「良いことも悪いこともあるけど、苦しさはずっと続かない。自分を盛り上げる方法は、自分で開発することができる」と話している。()

【発展課題】ヨシタケさんの絵本を読んで、感じたことや考えたことを家の人や友達と話し合ってみましょう。